2006年度事業報告

1　庶務関係

(1)　総　会

第50回（2006年度）通常総会を2006年3月25日，京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホール（京都市左京区吉田本町）において開催し，次の議案を可決した．

① 2005年度事業報告および決算の承認に関する件
② 会長指名による評議員の承認に関する件
③ 細則の変更に関する件
④ 2006年度事業計画案および予算案の承認に関する件
⑤ 名誉会員の推薦に関する件（名誉会員証の贈呈）

(2)　理事会，評議員会，委員会等の開催

2006年度は下記のとおり開催した．

理　事　会（5回）5月2日，8月1日，10月16日，2007年1月17日，3月19日
業務担当理事連絡会（5回）4月25日，7月24日，10月4日，12月26日，2007年3月5日
評　議　員　会（2回）10月16日，2007年3月19日
役員選考委員会（1回）9月25日
授賞選考委員会（2回）11月2日，12月7日
学術活動強化委員会（3回）3月26日，6月15日，11月27日
和文誌運営委員会（2回）6月10日，11月18日
和文誌編集委員会（2回）6月10日，11月18日
英文誌編集総務会（2回）7月18日，2007年2月13日
英文誌編集委員会（2回）3月27日，10月27日
産学官学術交流委員会（2回）6月21日，12月12日
広 報 委 員 会（2回）5月23日，11月27日
JABEE対応委員会（1回）3月26日

(3)　会員の状況

2006年度（平成19年1月31日現在）の会員数は次のとおりである．

	2006年度	2005年度	増減
名誉会員	16	16	0
終身会員	208	215	−7
正 会 員	10,025	9,963	＋62
学生会員	2,268	2,439	−171
団体会員	382	390	−8
維持会員	123	130	−7
（口数）	(257)	(264)	(−7)
合　計	13,022	13,153	−131

なお，2006年10月開催の第117回評議員会の議決により次の5名の会員各位を終身会員に推薦申し上げた．

今関英雅氏，安本教傳氏，本間　守氏，木村　光氏，岡　徹夫氏（生年月日順）

(4)　研究業績の表彰，奨励

2006年度学会賞は第50回総会において，日本農芸化学会賞2件，日本農芸化学会功績賞2件，農芸化学技術賞2件，農芸化学奨励賞10件の授賞を行った．

2007年度学会賞は授賞選考委員会で選考した候補者について全評議員の投票により受賞者を決定し，本日の総会，授賞式等に引き続いて，日本農芸化学会賞2件，日本農芸化学会功績賞2件，農芸化学技術賞2件，農芸化学奨励賞10件の授賞を行い，各賞の受賞者講演が行われる．

また，委員会の選考を経て本会から各財団等に対する候補者を下記のように推薦した．

(財)農学会・農学進歩賞：1件
(財)東レ科学振興財団・東レ科学技術研究助成：1件
(財)沖縄協会・沖縄研究奨励賞：1件
(財)森永奉仕会・研究奨励金：1件
(財)藤原科学振興財団・藤原賞：1件
(財)山田科学振興財団・研究助成：1件

(5)　研究発表会，シンポジウム，講演会等の開催

1)　2006年度全国大会

2006年度全国大会は2006年3月25日から28日までの4日間，京都大学百周年時計台記念館（京都市左京区吉田本町）および京都女子大学（京都市東山区今熊野北日吉町）において開催した．大会第1日目（3月25日）は京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホールにおいて，第50回通常総会，学会賞等授賞式，B.B.B. 論文賞およびMost Cited Paper Award表彰式，産学官学術交流委員会フォーラム（第3回農芸化学研究企画賞表彰式），新旧評議員等午餐会，学会賞等受賞者講演などが行われた．また，同日夕刻，ウェスティン都ホテル京都において大会懇親会が盛大に行われた．大会第2日〜4日（3月26日〜28日）は京都女子大学において，OHP発表による一般講演2495題，特別シンポジウム2件を含むシンポジウム22テーマ・144件の発表と討論，ランチョンセミナー12件，展示会が開催された．展示会には128社・195小間の出展があった．また第2回農芸化学研究企画賞研究中間報告会が行われた．さらに展示会場において「高校生による研究発表会・化学，生物，環境」のポスター発表を開催した．臨時の保育室も開設し，大会参加者数は5,495名であった．

2)　2006年度（第32回）化学と生物シンポジウム

2006年度（第32回）化学と生物シンポジウム「ゲノム先端科学が拓く未来」は，2006年3月24日，京都大学百周年時計台記念館（京都市左京区吉田本町）において開催

され，約 200 名の参加者があった．

3) **第 14 回農芸化学 Frontiers シンポジウム**

2006 年度・第 14 回農芸化学 Frontiers シンポジウムは，2006 年 3 月 28 日〜29 日，関西セミナーハウス（京都市左京区一乗寺竹之内町）において開催され，92 名の参加者があった．

4) **第 3 回，第 4 回産学官若手勉強会，および小勉強会**

産学官学術交流委員会内に設けられた産学官若手交流会による第 3 回産学官若手勉強会「農芸化学産学官連携：成功へのステップ」，および第 4 回勉強会『2007 年度大会シンポジウム「若手が担うこれからの農芸化学：社会ニーズと産学官連携」』は，第 3 回が 2006 年 7 月 21 日，ぱ・る・る・プラザ京都（JR 京都駅前）において開催され盛況であった．また，第 4 回は 2007 年 3 月 25 日，東京農業大学世田谷キャンパス（東京都世田谷区桜丘 1-1-1）において開催される． このほか 2007 年 2 月 16 日，（独)酒類総合研究所（広島市鏡山）において，産学官交流・冬の小勉強会 in 広島「実学は農芸化学の美学」が開催され盛況であった．

(6) 国際会議，国際シンポジウムの共催・協賛・後援

本会の共催・協賛・後援により 2006 年度に開催または開催予定の国際会議， 国際シンポジウムおよび 2007 年度以降に開催予定の国際会議等は次のとおりである．

1) **2006 年度（平成 18 年度）開催（17 件）**

統合創薬科学国際シンポジウム―伝承から構造生物学まで/難治性疾患を標的とした創薬化学研究発表会（京都市）《協賛》2006 年 3 月 5〜6 日

第 7 回機能性 π 電子国際会議 (The Seventh International Symposium on Functional π-Electron Systems (Fπ7))（京都市）《協賛》2006 年 5 月 15〜20 日

第 20 回国際生化学・分子生物学会議 (20th IUBMB International Congress of Biochemistry and 11th FAOBMB Congress)（京都市）《後援》2006 年 6 月 18〜23 日

国際純正・応用化学連合第 25 回天然物化学国際会議・第 5 回生物多様性国際会議 (25th IUPAC International Conference on Biodiversity and Natural Products)（京都市）《共催》2006 年 7 月 23〜28 日

福岡シンポジウム「生物資源の多様性と有効利用に関する国際シンポジウム」(The Fukuoka Symposium “New Horizon fo Natural Product and Biological Chemistries”)（福岡市）《協賛》2006 年 7 月 30〜31 日

第 11 回 IUPAC 農薬化学国際会議 (11th IUPAC International Congress of Pesticide Chemistry)（神戸市）《後援》2006 年 8 月 6 日〜11 日

第 22 回有機硫黄化学国際シンポジウム (22nd International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur (ISOCS22))（さいたま市）《共催》2006 年 8 月 20〜25 日

第 5 回国際シアロ糖鎖科学会議 2006 (Sialoglycoscience 2006, Fifth International Conference, Mishima, Japan)（三島市）《後援》2006 年 8 月 27〜30 日

第 6 回 IUFoST-JAPAN 公開シンポジウム（藤沢市）《後援》2006 年 8 月 30 日

高圧力バイオサイエンスとバイオテクノロジーに関する第 4 回国際会議 (The Fourth International Conference on High Pressure Bioscience and Biotechnology (HPBB2006))（つくば市）《共催》2006 年 9 月 25〜29 日

プロテイン・アイランド・松山国際シンポジウム（松山市）《後援》2006 年 10 月 6 日および 8 日

ハラタマ・ワークショップ 2006「持続可能な社会をめざす化学，化学技術，ならびにバイオテクノロジー」(Gratama Workshop 2006 “Chemistry, Chemical Technology, and Biotechnology for a Sustainable Society”)（淡路市）《協賛》2006 年 10 月 19〜21 日

第 43 回ペプチド討論会・第 4 回ペプチド工学国際会議 (International Conference of 43rd Japanese Peptide Symposium/4th Peptide Engineering Meeting “Peptide Science and Engineering in Chemical Biology”)（横浜市）《協賛》2006 年 11 月 5〜8 日

第 10 回化学・生命科学マイクロシステム国際会議 (The 10th International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences (μTAS2006))（東京・千代田区）《協賛》2006 年 11 月 5〜9 日

第 2 回国際生物分子と関連化合物シンポジウム (2nd International Symposium on Biomolecules and Related Compounds)（京都市）《協賛》2006 年 11 月 10〜12 日

第 10 回国際有機化学京都会議 (The Tenth International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-10))（京都市）《協賛》2006 年 11 月 13〜17 日

地球温暖化対策技術 国際シンポジウム「世界の動向と日本の果たすべき役割」（東京・港区）《後援》2007 年 1 月 18 日

2) **2007 年度（平成 19 年度）以降開催予定（9 件）**

国際シンポジウム GSC-AON2007（第 1 回グリーン・サステイナブル ケミストリー アジア・オセアニア会議，第 7 回 GCS シンポジウム）（東京・千代田区）《後援》2007 年 3 月 6〜9 日

第 5 回アクアポリン国際会議 (The 5th International Conference of Aquaporin)（奈良市）《後援》2007 年 7 月 13〜16 日

第 27 回残留性有機ハロゲン系汚染物質国際シンポジウム (27th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants)（東京・港区）《協賛》2007 年 9 月 2〜7 日

第 2 回回折構造生物国際シンポジウム 2007 (The 2nd In-

ternational Symposium on Diffraction Structural Biology 2007)（東京・江戸川区）《協賛》2007 年 9 月 10〜13 日

第 4 回アジア・太平洋化学生態学会議 (4th Asia-Pacific Conference on Chemical Ecology)（つくば市）《後援》2007 年 9 月 10〜14 日

バイオジャパン 2007 World Business Forum（横浜市）《後援》2007 年 9 月 19〜21 日

国際コエンザイム Q10 協会第 5 回カンファレンス (The Fifth Conference of the International Coenzyme Q10 Association)（神戸市）《協賛》2007 年 11 月 9〜12 日

第 5 回国際核酸化学シンポジウム（東京・文京区）《協賛》2007 年 11 月 20〜22 日

第 4 回国際フードファクター学会 (The 4th International Conference of Food Factors)（京都市）《後援》2007 年 11 月 27〜12 月 1 日

(7)　その他本会の共催，協賛，後援による国内学術集会（80 件）

第 54 回質量分析総合討論会—発展する MS サイエンス（大阪）《共催》（5 月 17 日〜19 日）

食品ハイドロコロイドセミナー—初心者のための基礎と実践的な応用（東京）《協賛》（5 月 18 日）

モレキュラー・キラリティー 2006（富山）《共催》（5 月 18 日〜19 日）

第 17 回食品ハイドロコロイドシンポジウム（東京）《協賛》（5 月 19 日）

第 52 回低温生物工学会大会（セミナーおよび年会）（九大）《協賛》（5 月 26 日〜27 日）

第 16 回福岡シンポジウム—戦略的「もの創り」の有機合成（九大）《協賛》（5 月 27 日）

第 9 回マリンバイオテクノロジー学会大会（マリンバイオ東京 2006）（東京海洋大）《協賛》（5 月 27 日〜28 日）

第 1 回ホスト・ゲスト化学シンポジウム（茨城）《協賛》（5 月 29 日〜30 日）

第 23 回希土類討論会（東京）《協賛》（5 月 30 日〜31 日）

創造機能化学講演会（東京）《共催》（6 月 6 日）

日本油化学会東海支部油化学セミナー「油化学をめぐる新素材・最新動向」（愛知）《協賛》（6 月 7 日）

日本リスク研究学会　第 19 回春期講演シンポジウム「化学物質による内分泌かく乱作用のメカニズム—健康影響の視点から」（東大）《協賛》（6 月 16 日）

第 17 回仙台シンポジウム—有機合成化学の力量：小分子から巨大分子まで（宮城）《協賛》（6 月 24 日）

構造活性フォーラム 2006—創薬研究のためのデータ科学：基礎と応用（愛知）《協賛》（6 月 30 日）

第 8 回ペプチドフォーラム『ペプチド・タンパク質合成の革新的方法論と Chemical Biology への展開』（京都薬科大）《協賛》（7 月 1 日）

第 33 回 BMS コンファレンス (BMS2006)—MS の叡智，叡知，英知（滋賀）《共催》（7 月 2 日〜5 日）

第 41 回天然物化学談話会（北海道）《協賛》（7 月 3 日〜5 日）

機器分析講習会【高速液体クロマトグラフィーの基礎と実践】（東理大）《協賛》（7 月 5 日〜7 日）

バイオテクノロジー実習セミナー　品質管理に役立つ微生物試験および検査（大阪）《協賛》（7 月 5 日〜7 日）

第 2 回オレオライフサイエンス部会セミナー「酸化と抗酸化の研究—これまでとこれから」（昭和大）《協賛》（7 月 7 日）

第 18 回万有札幌シンポジウム—有機合成化学の夢と挑戦（北海道）《協賛》（7 月 8 日）

第 43 回化学関連支部合同九州大会（福岡）《共催》（7 月 8 日）

第 33 回生体分子科学討論会（名工大）《協賛》（7 月 14 日〜15 日）

日本プロセス化学会 2006 サマーシンポジウム（京都）《協賛》（7 月 20 日〜21 日）

機器分析講習会【GC/MS, LC/MS の基礎と実際】（東京）《協賛》（7 月 27 日〜28 日）

第 19 回バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS 2006)（九大）《共催》（8 月 1 日〜3 日）

第 47 回分析化学講習会（福岡大）《共催》（8 月 9 日〜11 日）

第 26 回日本糖質学会年会—糖質，複合糖質に関する基礎および応用研究（宮城）《共催》（8 月 23 日〜25 日）

FCCA グライコサイエンス若手フォーラム 2006（東北大）《後援》（8 月 26 日〜27 日）

第 57 回熱測定講習会—高分子材料開発のための熱分析（阪大）《協賛》（9 月 6 日〜8 日）

第 45 回日本油化学会年会（東理大）《協賛》（9 月 8 日〜10 日）

第 16 回ドリコールおよびイソプレノイド研究会（富山）《協賛》（9 月 14 日）

生体キノン研究会第 5 回講演会（中央大）《共催》（9 月 15 日）

第 44 回粉体に関する討論会（福岡）《協賛》（9 月 20 日〜22 日）

日本学術会議第 13 回界面シンポジウム「アスベスト問題における理・工学と医学の接点」（東京）《協賛》（9 月 22 日）

平成 18 年度　第 2 回油化学セミナー in 函館　機能性脂質の最前線—脂溶性微量成分による健康調節機能（北海道）《協賛》（9 月 22 日）

サントリー健康フォーラム 2006〜美感遊創 生命の輝きをめざして〜メインテーマ「肥満予防と健康」（東京）《後援》（9 月 28 日）

有機合成夏期セミナー「明日の有機合成化学」（大阪市立大）《共催》（9 月 28 日〜29 日）

第5回最先端バイオテクノロジー公開セミナー—化学工学技術に基づくバイオプロダクション（阪大）《協賛》（9月29日）
第54回レオロジー討論会（九大）《協賛》（10月4日〜6日）
革新的環境技術シンポジウム（大阪）《後援》（10月5日）
第42回熱測定討論会（第27回日本熱物性シンポジウムとの Joint Meeting）（京大）《協賛》（10月7日〜9日）
2006土壌・地下水環境展（テーマ「快適なくらしと産業を創造する環境ソリューション」）（東京）《協賛》（10月11日〜13日）
第48回天然有機化合物討論会（宮城）《共催》（10月11日〜13日）
第24回シクロデキストリンシンポジウム（東大）《共催》（10月12日〜13日）
第9回若手研究者のための生命科学セミナー　ストレスと生活—ストレスマーカーと計測・解析—“ストレスを楽しもう”（東京）《協賛》（10月13日）
革新的環境技術シンポジウム（東京）《後援》（10月18日）
ハラタマワークショップ2006—持続可能な社会をめざす化学，化学技術，ならびにバイオテクノロジー（兵庫）《協賛》（10月19日〜21日）
2006年度日本冷凍空調学会年次大会（九大）《協賛》（10月22日〜26日）
第51回リグニン討論会（北大）《共催》（10月26日〜27日）
2006年度オレオマテリアル部会（関東地区）セミナー『オレオマテリアルにおけるグリーンケミストリーの新展開』（東理大）《協賛》（10月27日）
第15回日本バイオイメージング学会学術集会（岩手医大）《協賛》（10月31日〜11月2日）
第21回バイオハイブリッド研究会（東工大）《協賛》（11月1日）
第17回日本レチノイド研究会学術集会（東大）《協賛》（11月4日〜5日）
第1回多糖の未来シンポジウム（名大）《共催》（11月7日）
第12回名古屋メダルセミナー（愛知）《協賛》（11月9日）
第47回高圧討論会（熊本）《協賛》（11月9日〜11日）
日本食品工学会2006年度秋季講演会“食品研究の新しい展開”（石川県立大）《共催・後援》（11月10日）
創立50周年記念香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（神奈川）《共催》（11月10日〜12日）
第29回情報化学討論会（新潟）《共催》（11月14日〜15日）
第34回構造活性相関シンポジウム（新潟）《共催》（11月14日〜15日）
日本希土類学会第24回講演会（大阪）《協賛》44-9（11月17日）
平成18年度第3回油化学セミナー—食感とうま味のニューフロンティア（昭和大）《協賛》（11月17日）
2006年日本化学会西日本大会（琉球大）《共催》（11月18日〜19日）
第24回医用高分子研究会講座—先端メディカルポリマーに求められる機能（東大）《協賛》（11月20日〜21日）
第33回核酸化学シンポジウム（阪大）《協賛》（11月20日〜22日）
平成18年度後期有機合成化学講習会「効率」を目指した有機合成化学の新展開〜触媒反応からプロセス化学まで，発想・実例を交えて〜（東京）《共催》（11月21日〜22日）
第53回日本油化学会界面科学部会秋季セミナー（テーマ：化粧品，医薬品，農薬，食品製剤の最前線）（神奈川）《協賛》（11月21日〜22日）
第36回複素環化学討論会（長崎大）《共催》（11月22日〜24日）
第18回学術助成金による研究成果発表会（東京）《後援》（11月30日）
第6回基準油脂分析試験法セミナー—基礎から最新手法の分析技術と実践的活用ポイント（東京理科大）《協賛》（11月30日〜12月1日）
第33回有機典型元素化学討論会（旧ヘテロ原子化学討論会）（福岡大）《共催》（12月7日〜9日）
文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「生体機能分子の創製」第3回公開シンポジウム（東大）《協賛》（12月8日〜9日）
第5回食品レオロジー講習会—初心者のための実習と基礎（東京）《協賛》（12月9日〜10日）
理研シンポジウム「第7回分析・解析技術と化学の最先端」（埼玉）《協賛》（12月12日）
第18回高分子ゲル研究討論会（東大）《協賛》（2007年1月17日〜18日）
理研シンポジウム第10回「生体分子の化学」（埼玉）《協賛》（1月26日）
セミナー「医薬品製造に関わるGMPの最新動向；講演会＆見学会〜リスクに基づく医薬品製造へのアプローチ〜」（山口大ほか）《協賛》（2月1日〜2日）
21世紀COEシンポジウム「創薬ターゲットとしての機能性天然分子：研究の最前線」（北大）《協賛》（2月13日）
第58回熱測定講習会初心者のための熱分析の基礎と応用 - 無機・有機・高分子・複合材料評価の実際（東京電機大）《協賛》（2月14日〜16日）

(8)　支部主催等による学術集会

北海道支部（2件）
合同学術講演会（北大農，8月5日〜6日）
東北支部合同支部会（北大，11月11日〜13日）
東北支部（3件）
シンポジウム「天然物化学最近の話題から」（弘前大農，

7月8日）
北海道支部合同支部会（北大，11月11日〜13日）
市民フォーラム（山形大農，12月2日）
関東支部（2件）
例会・シンポジウム「現象を操る分子分子をとる―ものとりの極み」（東大，6月30日）
大会・シンポジウム「創造的分子研究とバイオテクノロジーへの応用（野田市，9月30日）
中部支部（4件）
例会・受賞記念シンポジウム「健康長寿の生命科学最前線」（信州大農，7月1日）
例会・シンポジウム「化学と生物がきりひらく世界」（名大，10月21日）
第12回名古屋メダルセミナー（共催，名古屋市，11月9日）
例会・若手シンポジューム「最新食品科学・農芸化学研究の動向」（三重大生資，12月9日）
関西支部（8件）
例会（京府大，5月27日）
例会・ミニシンポジウム「生体分子の網羅的解析から見えるバイオサイエンスの未来」（阪府大，7月1日）
有機合成セミナー「明日の有機合成化学」（共催，阪市大，9月29日）
第5回最先端バイオテクノロジー公開セミナー（協賛，阪市大，9月29日）
大会（京工繊大，9月30日〜10月1日）
例会（神戸大，12月9日）
セミナー「医薬品製造に関わるGMPの最新動向」講演会・見学会（協賛，山口大工，2月1日〜2日）
例会（京大，2月3日）
中四国支部（4件）
支部創立5周年記念講演会（松江市，5月13日）
支部創立5周年記念大会（愛媛大農，9月15日〜16日）
支部創立5周年記念若手研究者交流シンポジウム「21世紀農業を開拓する農芸化学を語る」（大芦高原温泉，12月9日〜10日）
支部創立5周年記念講演会（香川大農，1月27日）
西日本支部（5件）
例会（日田市，5月26日）
日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部合同大会（佐賀大，9月29日〜30日）
日本化学会西日本支部大会（共催，琉球大，11月18日〜19日）
合同フォーラム「食の未来に向けて」（共催，九大，11月23日）
総会・講演会（九大農，1月27日）

(9) JABEE（日本技術者教育認定機構）対応委員会関係

1) 昨年度大会時（3月26日）にJABEE対応委員会を開催し，委員会活動の内容や方向について議論した．

2) 2006年度には，農学一般関連分野で2件の中間審査と3件のJABEE実地相談・試行審査があり，そのうち，農芸化学関連プログラムのJABEE実地相談・試行審査に審査長1名を派遣した．また，生物工学系分野の審査にもオブザーバー1名を派遣した．

3) 2006年7月29日に2006年度農学系JABEE研修会が開催され，本会からはJABEE対応委員2名を含め7名が参加した．また，2007年3月17日には化学系JABEE研修会が開催され，本会からの参加者は1名であった．

4) JABEE主催のJABEE地区別シンポジウム「国際的に通用する大学院教育のために」にJABEE対応委員が参加した．

5) 財団法人農学会技術者教育推進委員会に，江坂宗春委員長が参加するとともに，JABEEの認定基準案等について意見を提出し，連携を図っている．

6) 2007年度日本農芸化学会大会時にJABEEシンポジウムを開催することを決定し，JABEE対応委員会で協議しながら，講演者の決定など，その準備を行った．

7) 今後，農芸化学関連分野プログラムの増加が予想されるため，早急に審査員有資格者の育成を図るとともに，JABEE対応委員会のさらなる強化が必要である．

(10) 関係学協会委員等の推薦

関係学協会委員等を次のとおり推薦した．

日本農学会創立80周年記念事業のための調査準備委員会・委員（2006年7月）
八村敏志氏（庶務理事）
第44回アイソトープ・放射線研究発表会・運営委員（2006年10月）
八村敏志氏（庶務理事）
日本光生物学協会・委員（2007年1月）
河内孝之氏（京都大学大学院生命科学研究科）

(11) 日本農学会関係

第77回日本農学大会が2006年4月5日，東京大学山上会館において開催され，日本農学賞・読売農学賞授賞式，パネルディスカッション「農学の課題と展望2006」が行われた．また，シンポジウム「動物・微生物における遺伝子工学研究の現状と展望」は2006年10月14日，東京大学弥生講堂において開催された．

なお，第78回日本農学大会は2007年4月5日に東京大学山上会館において，また，シンポジウム「外来生物のリスク管理と有効利用」は2007年10月13日に東京大学弥生講堂でそれぞれ開催の予定である．

(12) 財団法人農芸化学研究奨励会関係

財団法人農芸化学研究奨励会は2006年度研究助成として，昨年12月に応募申請者を選考のうえ，研究奨励金5件（1件50万円，総額250万円）を贈呈した．また，国際会議出席費補助金（予定件数6件，総額90万円）について

は，現在申請を募集中である．

また，本年度より，日本農芸化学会大会実行委員会主催「高校生による研究発表会」共催補助金の贈呈．日本農芸化学会広報委員会主催シンポジウム共催補助金の贈呈を行った．

2　広報委員会関係

(1)　第1回広報委員会において，清水　誠氏が互選により委員長に選出された．

(2)　2006年度は3回の三省堂書店との共催による『サイエンスカフェ』を開催した．

第1回　10月21日(土)「食品と消化器官」
講師：清水　誠氏　コーディネーター：元村有希子氏

第2回　1月20日(土)「メスはなぜモテる？―昆虫フェロモンの秘密から環境に優しい農薬へ！」
講師：森　謙治氏　コーディネーター：元村有希子氏

第3回　3月17日(土)「古くて新しい麹菌―酒造りから地球温暖化対策まで―」講師：北本勝ひこ氏　コーディネーター：元村有希子氏

(3)　学校教育における農芸化学の普及活動補助の選考

10月31日締切で公募の結果3件の申請があり，協議の結果3件に補助金を贈呈した．

1.　高校生教育プログラム「有用微生物の探索と遺伝子組換えについて」
開催日：8月3日～4日　申請者：中島春紫氏

2.　門池環境調査隊！～水質検査と水辺の生物観察～
開催日：12月16日　申請者：竹口昌之氏

3.　日本農芸化学会2007年度大会高校生研究発表会「ジュニア農芸化学会」
開催日：3月25日　申請者：日高真誠氏

(4)　日本農芸化学会パンフレット・ホームページの作成

高校生，一般の人を対象に農芸化学をわかりやすく解説したホームページを会員用のホームページとは別に開設し，ホームページに導くためのパンフレットを作成した．

今後は，ホームページの充実に努める．

(5)　2006年度大会（京都女子大学）について昨年3月14日に東京（本郷・学士会分館）において記者会見を行った．この席で，新聞，放送，出版関係者16社17名に大会広報資料を配布し，広報理事，大会関係委員が主要な研究発表を紹介，解説した．

3月24日より東京農業大学世田谷キャンパスで開催される2007年度大会についても同様の記者会見を3月16日に行った．

3　学術活動強化委員会関係

2006年度は下記の活動を行った．

(1)　補助金の交付：今年度より補助全体のあり方を見直し，改定された規定に基づいて広く募集を行った．これに対して申請のあった下記について委員会で厳正な審議を行い，その結果採択された申請に対して補助金を交付した．採択された講演会・セミナーなどは本会の共催として開催された．

国際学術集会（申請順）

1)　外国人等講演会（申請5件，採択5件）

No. 518　「D. Archer 教授講演会」(6月20日，東大農)

No. 519　「R. Schmidt 教授講演会」(9月4日，鳥取大工)

No. 520　「W. Meyerhof 教授講演会」(7月15日，東大農)

No. 521　「T. Komiyama 博士講演会」(11月27日，京大院)

No. 522　「O. Ghisalba 博士講演会」(9月22日，北大農)

2)　国際シンポジウム（申請2件，採択1件）

No. 5　「第11回IUPAC国際農薬学会サテライトシンポジウム」(8月4日，近畿大農)

藪田講演会・藪田セミナー（申請順）

1)　藪田講演会（申請2件，採択2件）

No. 2　「上田哲也博士講演会」(6月16日，東北大農)

No. 3　「渡部浩之輔博士講演会」(7月10日，近畿大農)

2)　藪田セミナー（申請2件，採択2件）

No. 103　「酵素化学ミニシンポジウム：酵素化学において過去10年間に解明されたこと，今後10年間に解明すべきこと」(2007年9月10日，京大会館)

No. 104　「新領域を拓く微生物・植物の二次代謝テルペノイド生合成研究」(2007年5月19日，東大弥生講堂)

(2)　化学と生物シンポジウムの開催

2006年度・第32回化学と生物シンポジウム「ゲノム先端科学が拓く未来と社会」は，3月24日，京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホールにおいて開催され，約200名の参加者があった．

(3)　農芸化学Frontiersシンポジウムの開催

2006年度・第14回農芸化学Frontiersシンポジウムは，2006年3月28日～29日，関西セミナーハウス（京都市左京区一乗寺竹之内町）において開催され，92名の参加者があった．

(4)　補助金の組み替えと次年度の募集予定について

今年度行った補助金の組み替え，および申請しやすい補助規定に改定したことが効果を上げ，今年度は補助全般に申請が増えたことでもあり，次年度も引き続きこの体制で募集を行うことにした．

4　和文誌編集委員会関係

委員会において「化学と生物」誌の企画・編集を行い，年12冊を会員に配付した．

委員会は企画・編集にあたって生命科学全般に関する話

題を基礎から応用にわたってバランスよく取り上げ，読みやすい誌面をつくるよう努めた．

また，「化学と生物」44 巻は「解説」の編数，頁数を増やした．

5　英文誌編集委員会関係

(1)　2006 年 1 月～12 月の投稿数は前年より 22 編多い 727 編，掲載数は前年より 89 編多い 481 編であった．また，印刷頁数は 616 頁多い 3098 頁であった．投稿から掲載までの期間は， Regular Paper, Note が平均約 6.9 ヵ月（最短 4.5 ヵ月）， Communication が平均約 4.1 ヵ月（最短 2 ヵ月）である．また審査期間は Regular Paper, Note が平均 76.4 日（最短 6 日），Communication が平均 53.8 日（最短 10 日）である．

(2)　2006 年 6 月より論文の早期公開を試験的に開始し，9 月より本格的に導入し，希望者の論文は早期公開を行っている．

(3)　英文誌 70 巻掲載の Regular Paper, Communication 全 327 編のうち優れた論文 10 編を選出し論文賞とした．

(4)　英文誌 68 巻，69 巻掲載の Regular Paper, Communication, Note 全 803 編のうち，2006 年 1 月末までに最も引用回数の多かった論文を Most-Cited Paper Award とした．

6　産学官学術交流委員会関係

2006 年度は 2 回の委員会を開催し，産学官連携の強化に向けて活動を行った．

(1)　第 4 回農芸化学研究企画賞の公募と選考について

第 4 回農芸化学研究企画賞のテーマと企業からの賛同寄付金の公募を行うにあたり，3 つの重点研究領域のうち，②グリーンケミストリー（脱石油化）を③グリーンバイオテクノロジー：((1) バイオマス資源の生産・供給・利用（有用物質生産プロセス等）に関わるテクノロジー，(2) 省資源・省エネルギープロセスに関わるバイオテクノロジー，(3) 有機性廃棄物処理・資源循環に関わるバイオテクノロジー）とし，③機能性食品素材および食品を②として，順番も入れ替えることにした．そのようにして募集した結果，①天然物由来の医薬品，②機能性食品素材および食品，③グリーンバイオテクノロジー…以上 3 つの重点研究領域に対して，合計 16 件の応募があり，賛同寄付は 20 社から合計 620 万円のご寄付を頂戴した．公募締め切り後，3 つの重点研究領域の各小委員会における審議結果をもとに，12 月 12 日の委員会で選考を行い，その結果，①天然物由来の医薬品領域で 1 件，②機能性食品素材および食品で 1 件，③グリーンバイオテクノロジーで 1 件，以上合計 3 件の受賞研究テーマと受賞者 3 名を決定し，各 200 万円の研究資金が授与されることとなった．受賞者氏名と研究テーマおよび賛同寄付企業名はお手元の総会資料に掲載している．また，以上の各受賞者については 2007 年 3 月 24 日の産学官学術交流委員会フォーラムにおいて，委員長より選考経過の報告が行われ，引き続いて研究企画賞の表彰式を行い，受賞者による研究テーマの概要の発表が行われることになっている．なお，本賞は 2007 年度も研究テーマと賛同寄付金の公募を行う予定であり，今回より応募件数も増えており，更なるご支援，ご協力，特に研究資金のご寄付をお願いしたい．

(2)　第 3 回農芸化学研究企画賞受賞者研究中間報告会の開催について

昨年受賞された第 3 回農芸化学研究企画賞受賞者（4 件）による研究中間報告会を 2007 年 3 月 25 日午前 10 時より，東京農業大学世田谷キャンパス 1 号館 4 階メディアホールにて開催する予定である．

(3)　産学官連携の強化について

産学官連携強化のために学会が果たすべき役割，どのようなアプローチが可能か，議論を行い，次年度もその方策についてさまざまな視点から考えていくことになった．

(4)　産学官若手交流会による 2 件の勉強会と 1 件の小勉強会の開催，および若手交流会からの提言について

7 月 21 日，ぱ・る・る・プラザ京都において，第 3 回勉強会「農芸化学産学官連携：成功へのステップ」が開催され，約 60 名が参加した．2007 年 2 月 16 日には「産学官交流・冬の小勉強 in 広島」として「実学は農芸化学会の美学」が広島市の酒類総合研究所において開催され，約 60 名が参加した．また，2007 年度大会のシンポジウムのひとつとして企画された第 4 回勉強会「若手が担うこれからの農芸化学：社会ニーズと産学官連携」を 2007 年 3 月 25 日午後，東京農業大学世田谷キャンパス 13 号館 B02 会場において開催することになっている．そして，若手交流会から産学官学術交流委員会への提言として，勉強会・小勉強会の開催を通じて支部との交流・連携を深めること，若手交流会からの発信の場として本会のホームページ，あるいは化学と生物誌の会告欄に記事を掲載していきたい，などが提案された．